

# 安曇野市公民館報

安曇野市  
中央公民館

No.29 2016.2.17  
TEL 71-2466

## 「安曇野市公民館の理念」制定

安曇野市教育委員会は、安曇野市公民館が目指すべき方向を定めるため「安曇野市公民館の理念」を制定しました。

### 「安曇野市公民館の理念」

安曇野市公民館は、社会教育法第20条で定める「市民の生活文化の振興と社会福祉の増進に寄与する」目的を達成するため『安曇野市公民館の理念』を制定し、地域の社会教育機関としての役割を明確にします。

この理念の下、安曇野市公民館は常に地域住民の交流と学習の場としてあり続け、館長並びに職員は時代に即した運営を展開します。

#### 1 地域づくりを地区公民館とともに進めます。

市民に最も身近な公民館は、自治公民館である地区公民館です。地域づくりは、そこに住む人々が集い交流することから始まります。安曇野市公民館は、地区公民館と協力して地域づくりを進めます。

#### 2 地域のつなぎ役として、各種団体と連携し交流を進めます。

地域には、様々な団体やグループがあります。それらが交流することで、新たな仲間や活動が生まれます。

安曇野市公民館は、各種団体などの育成とコーディネーターを務め、地域内の交流を進めます。

#### 3 事業の継続性を大事にしながら、時代に即したものに発展させます。

公民館には、長い間親しまれ、地域の特性を生かした事業が数多くあります。積み重ねた事業は、市民の貴重な財産や思い出となり、地域の絆を深めます。

安曇野市公民館は、地域と人づくりに貢献する継続事業を大切にしつつ、時代に沿ったものへと展開します。

#### 4 市民に最も身近な生涯学習活動の場を提供します。

市民が自らの意思に基づいて行う学習活動は、生きがいとなり、住みよい地域社会の創造に繋がります。

安曇野市公民館は、市民が生涯学習をいつでも気軽にできる場と情報の提供に努めます。

## 安曇野市総合芸術展開催のお知らせ

3月4日(金)～23日(水)まで



第5回安曇野市総合芸術展が3月4日(金)～23日(水)までの20日間、豊科交流学習センター「きぼう」2階多目的交流ホールで開催される。

※3月7日、14日、22日は休館

作品は、絵画、水墨画、書道、写真、彫刻・彫塑、工芸などで、昨春秋に5地域の公民館で開催された文化祭の出品作品より92点を展示する。

また、豊科近代美術館では「友の会」の絵画部展が同時期(5日～21日)に開催され、その期間は「きぼう」と近代美術館との連絡通路が開放される。

## 欒

I市(北信)の知人から大雪見舞いの電話があった。知人が言うには、暖冬で雪が少なく、事故のもとになるから、除雪車を動かさないように、という通達が出ているという。昨年と

大違い、状況が逆転していた。大寒に入ったところで、厳しい寒波が来ると報じていた。先人の作った暦通りに季節は動いている。月と地球の重力バランスは良好だ。(Y・U)



### 元日ウオーキング

三郷公民館は1月1日、同館から「住吉神社」まで往復約4キロの元日ウオーキングを開いた。午後1時に集まった60人の参加者は、晴れやかな青空の下、寒風を突いて田園風景の道筋を歩いた。親子で参加した小学生から、70代の健脚な壮年まで、年の始めに元気な笑顔が揃った。自分で合った、それぞれのペースで、初詣でにぎわう地元の古社「住

吉神社」を目指した。神社に作られた茅の輪をくぐり、参拝してから日陰に残る雪道の帰路を歩いた。公民館に戻って、抽選会で盛り上がり、1年が始まった。

(東山路)



### 疎開の記録に学ぶ

岩原地区公民館は11月29日、同館で人権講座を開いた。安曇野市教育長橋渡勝也さんの講演「集団疎開児童を受け入れた70年前の堀金岩原の人たちに学ぶ」に30人余りが出席した。戦火の激しい昭和20年、東京の塚戸小学校の児童115人が堀金岩原にあった「須砂渡修練所」と「岩原公民館」で疎開生活を

子どもたちに優しく接した地域の人々の様子が、両校の100周年記念誌に掲載されている。堀金小学校100周年に、かつての疎開者から感謝の気持ちを含めて贈呈された紅白幕が、今も当時の記憶を留めている。

(東山路)



### 二宮金次郎に託して

明科公民館の玄関を入って左側に、二宮金次郎(尊徳)の人形が飾られている。作者は沖松子さん(79)(東川手)。文化祭に出品した作品で、孫に常

に話して聞かせている「ありがとうといわれるように、ありがとうというように」という言葉を金次郎さんに託した。

人形像を作るにあたり、明北小学校の先生に相談したところ、学校にある像の写真は何枚か撮ってくれた。それを基に、沖さんは試行錯誤を重ねながらオリジナルの人形を作った。「ぼちぼち新しい草履に替えてやらなけりゃね、これもボケ防止のためせ」と、明るく笑った。

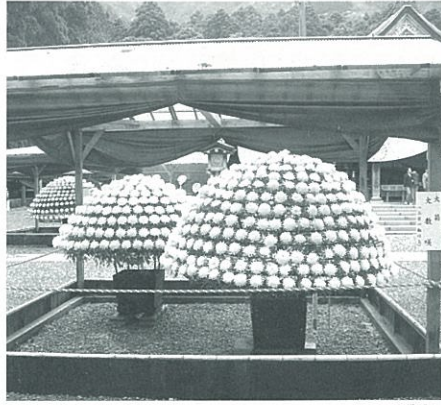
### おせち料理教室

12月15日、穂高公民館で「第3回季節の料理教室『おせち料理』」が開催された。郷土料理研究家・スーアの会代表の山本則子さんを講師に迎え、会議室で「おせち」は縁起を担いだ料理であることなどの解説とレシピの説明を受けた。その後、調理室に移動し、ブリ雑煮・三盛・黒豆・おなます他を作った。

参加者は「出汁で味が違うことが分かった」など、感想を語っていた。



### 菊作り先進地への視察研修



おおかずさき 1株で301輪以上の大菊を咲かせる大数咲

豊科公民館は「楽しい菊作り講座」の受講生らを対象にした先進地の視察研修を11月19日に13人の参加者で実施した。ここ3年、県内の視察をしていたが、本年は出品数約4千鉢3万本の小菊で作った大風景花壇や古典菊などの部門の多さから、全国随一といわれている新潟県の弥彦神社の菊まつりを時間をかけて見学した。弥彦小学校の児童作品もあり、当日は「総合的な学習の時間」ということで、小学生に会場の案内をしてもらった。

とよしな



# 古きを尋ねて

## 20 有明「新屋諏訪神社の絵馬」(句額・54面)



市内のお宮の拝殿や寺院に、縦35センチ横25センチほどの板に様々な絵が描かれ、そこに句が添えられた板絵を見たことはあるだろうか。これらは句額と呼ばれる絵馬の一種である。明治から大正にかけて庶民の間で注1「ひと口づけ」が流行った時期があり、春祭りや

秋祭りなど様々な場で句会が催され奉納された。

句会を企画する人を会主という。会主は、句会の撰者と、板絵を描く絵師を依頼する。そして地域の皆さんや、俳句の嗜みのある近隣の皆さんに句会の案内状を出す。句会に参加する人は、短冊に作った句と、絵師宛てにどんな絵を書いてもらうかを書き送付する。奉納してある板絵の裏には「15歳の女の子がお針仕事を…」などと絵師に宛てた依頼文が残っているものもある。絵師は地元作家が多く、穂高地域の場合、望月章斎、望月硯斎、丸山雲章らの名前が登場する。彼らが描いた作品は、屏風、掛軸として今も見ること

とができる。しかし、句額の絵は、庶民の暮らしを題材とし描いていることから、日本画の作風とは全く違う味わいがある。

撰者には、木下庵葦雄、月之本素水、其角堂機一、金丸對山らが登場する。木下庵葦雄は、明治16〜23年にかけて、青木花見・小岩岳・新屋・立足などの各神社に奉納された句額の撰者になっている。月之本素水は、伊那郡小野出身で明治政府の民衆教育官教導職の大教正となる旧派俳諧の大御所。其角堂機一は、江戸向島三囲社内其角堂を継ぐ俳人。元松本藩士の金丸對山は、多くの門弟を持ち地元で活躍した俳人である。撰者は、寄せられた句を採点し、その中で



新屋諏訪神社の絵馬

優れた作品を選ぶ。今はほとんど薄れて見えなくなっているが、朱で書かれた点数がわずかに読み取れるものもある。これら句額に描かれた絵は、当時の庶民の暮らしを知る貴重な資料である。また、このような句会が安曇野各所で開催されていたことは、句会が庶民の間で浸透していた証であり文化の豊かさを物語るものである。  
(注1) 与えられた題に味のあたる短い文言で答える短詩

# 地区公民館だより

## 野沢地区公民館(三郷)

野沢地区は、三郷14地区の南西部に位置し、かつては養蚕で栄えた地域であった。農業経営が多角化され、農業後継者は、生産、出荷、加工、販売と営農の6次産業化を模索している。人口1604人、566戸(28年1月)を数え、三郷で6番の大所帯である。

公民館には、公民館長、副館長、主事、書記の四役の他に文化部、保健体育部、生活産業部、女性部

があり、特色ある活動としては「ふるさと探訪」「野沢歴史探訪」を実施している。

保健体育部は、体育事業全般の運営に当たり、地区内17の「組合対抗ソフトボール大会」を開いている。その成果もあってか、三郷公民館主催の地区公民館対抗夏季スポーツ大会では、男子ソフトボールが優勝している他、冬季スポーツ大会でもワンバウンドふらばるバレーでA・B2チームで参加して、優勝と3位入賞を勝ち取っている。

生活産業部は、納涼祭の出店を実施運営し、年末には「しめ縄作り講習会」を開いている。

女性部は、納涼祭でバルーンアートや料理を担当し、各種講座では「羊毛フェルト」「ビーズ」の手芸教室や「寄せ植え」「みたらし団子作り」など、年間を通して企画及び運営をしている。

殊に特筆できる成果を上げているのは文化部で、年4回の公民館報を発行し、平成26年度安曇野市地区公民館表彰で優秀賞を受賞した。市内地区公民館報の上位3点に与えられる表彰で、常に行事に密着し、記事集めや執筆、校正に奔走した苦労のたまものと言える。館報として掲載する内容も公民館事業だけに留まらず、いきいきサロンや青空講座、防災訓練な



どの全区民活動、また、地区の人々にスポットを当てた報道で木戸の絆をつないでいる。  
(野沢地区公民館長 安坂俊二)



# グループ紹介

## 駒の会 (堀金)

うたう民謡「駒の会」は平成20年に結成し8年の歳月を数える。60代が主力の年齢構成で、最初は5人で始めた会も、地道な活動を続けて会員も10人に倍増した。テイチクレコード専属の山本扶美枝先生に指導を仰ぎ、毎月2回、第2第4の水曜日に、堀金公民館に集まり練習を積んでいる。

かつて、堀金地域に民謡教室として活動しているグループがあったが、会員の高齢化で継続が困難になり、当時の公民館関係者が、地域の民謡の会の芽を残したいと新たに同好の士を募り、数人でスタートしたメンバーが現在「駒の会」として隆盛をみるに至っている。

民謡は全員が初心者であったが、会員の仲間には、詩吟、三味線、尺八を愛好している芸達者がいて、披露しながら練習している。民謡は地方の先住民の中から生まれ、祝い唄、労働歌、祭り歌と種々多様で、さまざまな思いが込められている。うたう時は、情景や暮らし、言葉に込められた物語を思い浮かべ、情感豊かにうたうように心がけている。

地域に溶け込んだ活動を目指し、施設慰問の機会をつくって交流を図り、各地の敬老会への出演依頼では、自分たちも民謡の世界

を披露できる喜びと安らぎに浸っている。地区芸能祭では、地域に活動成果を発表して、民謡をうたう活動を広めたいと願っている。また、県民謡コンクールにも出場し、遠い話ではあるが、優勝者には全国大会への道も開けている。そこにたどり着く前に、愛好するが故の上達を求め、年1回の会の発表会を開いて盛り上がりをもせている。

民謡をうたうことで、古来の日本人の豊かな心に触れ、活動を続けることで健康な身体を維持して「心と身体」の糧となれば幸福な人生の道と言えるのではないだろうか。どなたでも気軽に声をかけていただき、民謡の世界へ顔を出して仲間の輪に加わって欲しいと、常に門を開けている。  
(代表・高橋清美 73・2477)



## 私は一生懸命



NPO法人 川の自然と文化研究所  
理事長 吉田利男さん (豊科)

## 水の歴史をひもとく

安曇野における川(水)の歴史は、安曇野の産業や文化に大きく影響を与えてきた。「川の自然と文化研究所」発足から10年、毎年講演会を開催し、記念誌「日本人の川と水への意識」「安曇野の水と人のかかわり」「安曇野の水をめぐる歴史文化と自然」「身近な水路の成り立ちとその働きを考えろ」「安曇野の水と暮らし」を発行している。

吉田さんは、信州大学理学部動物学科教授として後進を育て、現在は信州大学名誉教授、専門であるダニの研究の傍ら、数々の委員会や審議会にも所属し、地域史の編さんや行政計画の策定などにも関わっている。吉田さんを慕って仲間が集まり、普段の仕事としては難しい研究色の強い活動を続けている。

本年は、研究所発足10周年記念ということで、「懐かしき安曇野の水のすがた」移り変わりの記録

」をテーマに、昔の水風景写真を集め、その時の話を聞き取ったり、まとめたりする活動に取り組む。現代とは全く違う、安曇野の水風景。水と共に変化してきた暮らしのありさまと、人々の思いをまとめ、次代につなげたい願いがあ

水に恵まれたイメージのある安曇野だが、扇状地であることを考えると、人々の知恵と工夫をなくして安定的に水を得ることは難しい。水争いが起き、逆に水害に襲われることも多かった歴史もある。先人たちが培った水を制する暮らし、それをまとめてこれからの水・川を生かしたまちづくりへつなげたい。

数年前より体調を崩して病氣と闘いながらの活動となつていますが、生き生きと活動することが良薬となり、今後大いに活躍することが期待される。



絵：加々美 豊  
花：マーガレット

公民館報第27号 (11月発行) に文章の追加がありました。

3ページ 『古きを尋ねて』

「神宮寺は応永18年、由良覚心が熊野神社南(及木)に建立したという。」